

会議録【要点筆記】

会議名称	米沢市観光振興委員委嘱状交付式 及び 令和 8 年度第 1 回米沢市観光振興委員会																																												
開催日時	令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 14 時 00 分～16 時 30 分																																												
開催場所	置賜総合文化センター 2 階 203 研修室																																												
出席者	<table><thead><tr><th></th><th>（氏名）</th><th>（所属団体等）</th></tr></thead><tbody><tr><td>委員長</td><td>高澤 由美</td><td>山形大学工学部建築・デザイン学科 准教授</td></tr><tr><td>副委員長</td><td>高野 浩宣</td><td>米沢商工会議所 総務企画部主幹</td></tr><tr><td>委員</td><td>安藤 翼</td><td>公募委員</td></tr><tr><td>委員</td><td>入間川 悟</td><td>東日本旅客鉄道株式会社 米沢駅長</td></tr><tr><td>委員</td><td>遠藤 勲</td><td>一般社団法人米沢観光コンベンション協会 理事</td></tr><tr><td>委員</td><td>大河原 真樹</td><td>一般社団法人米沢市スポーツ協会 副会長</td></tr><tr><td>委員</td><td>加藤 秀典</td><td>米沢市社会福祉協議会 総務管理課総務係長</td></tr><tr><td>委員</td><td>上村 洋太郎</td><td>山形おきたま農業協同組合 青年組織協議会参与</td></tr><tr><td>委員</td><td>小松 史織</td><td>公益財団法人米沢上杉文化振興財団 主任</td></tr><tr><td>委員</td><td>色摩 彩佳</td><td>米沢市国際交流協会 事務局長</td></tr><tr><td>委員</td><td>野本 真穂</td><td>米沢鶴城高等学校 教諭</td></tr><tr><td>委員</td><td>松田 智博</td><td>協同組合米沢商店街連盟 理事長</td></tr><tr><td>オブザーバー</td><td>宮嶌 浩聡</td><td>プラットフォーム株式会社 代表取締役</td></tr></tbody></table>				（氏名）	（所属団体等）	委員長	高澤 由美	山形大学工学部建築・デザイン学科 准教授	副委員長	高野 浩宣	米沢商工会議所 総務企画部主幹	委員	安藤 翼	公募委員	委員	入間川 悟	東日本旅客鉄道株式会社 米沢駅長	委員	遠藤 勲	一般社団法人米沢観光コンベンション協会 理事	委員	大河原 真樹	一般社団法人米沢市スポーツ協会 副会長	委員	加藤 秀典	米沢市社会福祉協議会 総務管理課総務係長	委員	上村 洋太郎	山形おきたま農業協同組合 青年組織協議会参与	委員	小松 史織	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 主任	委員	色摩 彩佳	米沢市国際交流協会 事務局長	委員	野本 真穂	米沢鶴城高等学校 教諭	委員	松田 智博	協同組合米沢商店街連盟 理事長	オブザーバー	宮嶌 浩聡	プラットフォーム株式会社 代表取締役
	（氏名）	（所属団体等）																																											
委員長	高澤 由美	山形大学工学部建築・デザイン学科 准教授																																											
副委員長	高野 浩宣	米沢商工会議所 総務企画部主幹																																											
委員	安藤 翼	公募委員																																											
委員	入間川 悟	東日本旅客鉄道株式会社 米沢駅長																																											
委員	遠藤 勲	一般社団法人米沢観光コンベンション協会 理事																																											
委員	大河原 真樹	一般社団法人米沢市スポーツ協会 副会長																																											
委員	加藤 秀典	米沢市社会福祉協議会 総務管理課総務係長																																											
委員	上村 洋太郎	山形おきたま農業協同組合 青年組織協議会参与																																											
委員	小松 史織	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 主任																																											
委員	色摩 彩佳	米沢市国際交流協会 事務局長																																											
委員	野本 真穂	米沢鶴城高等学校 教諭																																											
委員	松田 智博	協同組合米沢商店街連盟 理事長																																											
オブザーバー	宮嶌 浩聡	プラットフォーム株式会社 代表取締役																																											
欠席者	<table><thead><tr><th></th><th>（氏名）</th><th>（所属団体等）</th></tr></thead><tbody><tr><td>委員</td><td>遠藤 友紀雄</td><td>温泉米沢八湯会 監事</td></tr><tr><td>委員</td><td>中嶋 朱実</td><td>N P O 法人米沢伝承館 副理事長</td></tr><tr><td>委員</td><td>宮坂 匡</td><td>公益社団法人米沢青年会議所 副理事長</td></tr></tbody></table>				（氏名）	（所属団体等）	委員	遠藤 友紀雄	温泉米沢八湯会 監事	委員	中嶋 朱実	N P O 法人米沢伝承館 副理事長	委員	宮坂 匡	公益社団法人米沢青年会議所 副理事長																														
	（氏名）	（所属団体等）																																											
委員	遠藤 友紀雄	温泉米沢八湯会 監事																																											
委員	中嶋 朱実	N P O 法人米沢伝承館 副理事長																																											
委員	宮坂 匡	公益社団法人米沢青年会議所 副理事長																																											
事務局 出席者	近藤市長（委嘱状交付式終了後退席）、土田部長、富取課長、斎藤課長補佐、 佐藤主査、清水主査、三浦主事																																												
会議資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 第 5 期米沢市観光振興計画冊子 ・ 令和 8 年度の主な実施事業及び予算について（別紙 1） ・ 令和 8 年度度米沢市観光振興委員会視察研修（案）について（別紙 2）																																												
会議内容																																													
【1（1）委嘱状交付】 ■近藤市長より、各委員へ米沢市観光振興委員の委嘱状交付を行った。																																													
【1（2）市長挨拶】 ■市長 ・本市では、このたび、令和 8 年度からのまちづくりの指針となる総合計画「よねざわ																																													

しあわせビジョン 2035」を策定し、新たなまちづくりをスタートした。人口減少が年間約 1,000 人規模で進む中、人口減少のスピードを緩やかにするとともに、市民一人ひとりの幸福度（ウェルビーイング）の向上を目指すことを大きな目標として掲げている。これらの目標の実現に向けては、交流人口や関係人口の拡大が重要であり、「米沢ファン」を一人でも多く増やすことで地域経済の活性化につなげていきたいと考えており、その中でも観光は非常に重要な役割を担うものと認識している。

- ・また、このたび、本市では観光・文化・スポーツを一体的に推進するため、「観光文化スポーツ部」を新設した。これまで教育委員会と市長事務部局に分かれていた所管を市長部局へ集約し、農業や食分野との連携も含め、一元的に交流人口の拡大に取り組む体制としている。このような組織再編は約 30 年ぶりであり、本市としても力を入れて取り組んでいるところである。
- ・さらに、2 年後には JR 東日本と置賜 3 市 5 町が連携して実施する観光キャンペーンにおいて重点共創地域に指定され、ガストロノミーツーリズムや地産地消、スノーアクティビティなどを柱に、国内外へ向けた誘客を進めるプロジェクトが展開される予定である。
- ・また、2030 年には上杉謙信公生誕 500 年という節目を迎えることから、上杉文化エリアの関係団体と連携した取組も構想している。このような様々な取組を通じて、観光交流人口の拡大に向け、市役所一丸となって取り組んでいく。委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。今後 2 年間、どうぞよろしくお願いいたします。

【2（1）開会】

【2（2）委員長・副委員長選出】

- 米沢市観光振興委員会設置要綱第 5 条の規定により、正副委員長を選出。委員長に、山形大学 高澤 由美 准教授、副委員長に 米沢商工会議所 総務企画部 高野 浩宣 主幹が選任された。

【2（3）委員長挨拶】

■委員長

- ・昨年度、第 5 期米沢市観光振興計画について大変素晴らしいものを練り上げられたと伺っている。私自身も拝見し、大変素晴らしい計画であると感じている。
- ・ここにいらっしゃる委員の皆様は、それぞれ現場のことをよくご存じの方々ばかりであるから、皆様から様々なご意見をいただきながら、よい議論となるよう努めてまいりたい。米沢市のよりよい観光振興に向け、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

【3 委員紹介】

【4 事務局及びオブザーバー紹介】

【5 議事】

＜議事へ移る前に、事務局より協議事項等について説明する＞

■本会議の定足数について、委員12名が出席しており、総委員数の過半数を超えていることから、本会議は成立する旨説明する。

■会議録の公開等について次のとおり説明し、協議を行う。

- ・本日の会議録については、要点筆記とし、発言者名は記載しないこととする。
- ・会議録は公開することとする。なお、次のいずれかに該当するとき、会議録の全部または一部を非公開とすることができる。

(1) 法令等の規定により公開することができないとされているとき。

(2) 会議での審議内容が、不開示情報に該当すると認められるとき。

(3) 会議を公開することにより、公正かつ円滑な審議が著しく阻害されると認められる場合で、審議会等の決定により、その会議の全部又は一部を公開しないとしたとき。

- ・委員の方の個人情報については、国の機関、地方公共団体、関係団体、市民及び報道機関より、情報提供の依頼があった場合は、名簿に掲載してある範囲に限って提供させていただく。

→ 委員より意見等無いため、上記のとおりの対応とさせていただく。

■本会議の議事録署名人について、安藤委員、入間川委員へお願いする。

【(1) 令和8年度の主な実施事業及び予算について（別紙1）】

■事務局より、資料に沿って説明（別紙1）

■委員長

- ・米沢市の観光の現状について、旅館や温泉などからも個別に聞き取りを行い、実態に近い人数を掲載いただいていると思うが、観光消費額に関するデータは把握しているか。

■事務局

- ・今回は資料には掲載していないが、観光消費額については毎年算出している。

■委員長

- ・昨年度まで3期にわたり県の審議会に関わらせていただいた。県の審議会でも、入込客数はもちろん重要であるが、いかにお金を使ってもらったかという点が大切であるという議論が多くあったと記憶している。ぜひ次回以降は、そうしたデータも掲載していただけるとありがたい。

【(2) 第5期米沢市観光振興計画に係る意見交換について】

■事務局

- ・第5期米沢市観光振興計画をもとに、本市の観光の現状や今後の方向性について、委員の皆様が日頃、それぞれのお立場で観光に携わる中で感じておられることや、米沢市の

観光に対する思い、今後期待されることなどについてお聞かせいただきたい。

■委員

- ・リボン協議会として、白布温泉・天元台の取組に3年間携わり、多くのことを学ばせていただいた。その取組の一つとして、トレイルランニング大会がある。県内では蔵王でも開催されているが、実施例は多くなく、天元台は開催に適した環境が整っていることから、自身の提案によりリボン協議会のソフト事業として開始し、現在まで継続して実施している。
- ・大会については、会場の受入れ体制を踏まえ、定員100人程度が適当である。今年は募集開始時期を早めたこともあり、過去最多となる60人が参加した。参加者の約8割は県外からで、市民の参加は2割に満たない状況である。今年で5回目を迎え認知度も高まり、早い段階から予定を立てて参加される方も増えていることから、今後さらにPRを強化することで、より多くの参加者の確保や誘客につながるコンテンツになると考えている。
- ・先日、天元台で開催されたトレイルランニング大会に参加させていただいたが、改めてスポーツツーリズムの可能性を感じた。県内では山形市や天童市などでマラソン大会が盛んに開催されており、申込締切前に定員へ達する大会もあるなど、高い人気を集めている。一方で、米沢市にはスポーツを通じて交流人口や観光客を呼び込むコンテンツがまだ少ないと感じており、こうした取組を今後さらに育てていくことが重要ではないかと考えている。

■委員

- ・米沢駅長となって4年目を迎えた。これまで新幹線の車掌を長く務めてきたが、駅長となって改めて、山形新幹線はビジネス利用よりも観光利用のお客様に支えられている路線であることを実感しており、地域の観光振興や地域活性化はJRにとって重要な取組であると感じている。
- ・JR 東日本ではこれまで、地域の方々とともに地域を盛り上げる取組を先導してきた。しかし現在は、地域の魅力や素材は地域の皆さん自身に見つけていただき、JRはその魅力を情報発信力やネットワークを生かして広く発信する役割を担うことが、より大きな効果につながると考えている。地域が元気になることでJRも元気になるという、好循環を生み出していきたい。
- ・冒頭で近藤市長から話のあった「重点共創エリア」の考え方も、まさにその方向性と一致している。JR が一方的に地域資源を見つけて発信するのではなく、地域の皆さんから寄せられた様々な魅力や素材を、JR が持つ情報発信力やネットワークを活用して積極的に発信し、地域の活性化につなげていきたい。

■委員

- ・観光コンベンション協会では、宿泊やインバウンド誘客、コンベンション誘致、物産振興など幅広い事業に取り組んでおり、観光課とも日頃から連携している。先ほど話があった2028年のJR 東日本の重点共創エリアについては、簡単に選定されるものではない。平成26年のデスティネーションキャンペーンに匹敵する規模の取組であり、JR が

多くの広告費を投入する事業となる。置賜地域全体が舞台となるが、新幹線の停車駅がある米沢市は特に大きな効果が期待されるため、誘客や消費の拡大につなげられるよう、皆さんと力を合わせて取り組んでいきたい。

- ・2030年には上杉謙信公生誕500年という大きな節目を迎える。第5期観光振興計画の最終年度にも当たることから、その節目を見据えながら、体制づくりや取組を進めていくことが重要であると考えている。
- ・東京のJTBの部長から「地方は地域の宝を育てるという意識を持ってほしい」と言われたことが印象に残っている。地域の魅力は意外と身近なところにあるものであり、それを見つけるだけではなく、継続して磨き、育てていくことが重要である。単年度で完結する取組ではなく、中長期的な視点で地域資源を育てていくことも必要だと感じている。
- ・また、一口に観光客と言っても様々な層がいる。事務局から、山形県の観光入込客数は約4,200万人で、そのうち約1,800万人が県内客、約2,400万人が県外客との説明があったが、さらにその中にはインバウンドも含まれる。県内から訪れる方と首都圏など県外から訪れる方では求めるものも異なるため、誰をターゲットとして情報発信や誘客を行うのかを意識した取組が重要である。
- ・最後に質問だが、第5期観光振興計画では令和7年度の目標値が設定されており、PDCAサイクルによる進捗管理も示されている。今年度は計画の実施段階に入るが、目標達成に向けて、観光課として現時点でどのように進捗管理や事業推進を行っていく考えなのか、お聞かせいただきたい。まだ検討段階であれば、その状況についてもご説明いただければと思う。

■委員長

- ・目標数値の達成に向けた取組や、PDCAサイクルの「D（実施）」については、後ほど事務局から説明をお願いします。

■委員

- ・2年ほど前に車で日本一周をしたが、各地を巡る中で改めて感じたのは、米沢には他の地域と比べても見劣りしない観光資源が数多くあるということである。姉妹都市である東海市の方からは、「米沢には国宝や重要文化財があつてうらやましい」と言われることがあり、「米沢ブランド」の知名度も高く、米沢市と姉妹都市になりたいという声を耳にすることもある。それだけ魅力ある資源があるからこそ、それらをどのように生かしていくかが重要であると感じている。そのためには、DMOの取組も重要であり、オブザーバーの宮脇氏を中心とした取組に対して、市としても積極的に支援し、PRを進めていくことを期待している。また、予算書を見る限りでは観光関係の予算は決して多くないように感じるため、今後のさらなる充実にも期待したい。
- ・米沢市と連携している日本体育大学の理事長が天元台を視察した際、「木のチップを敷いた周回型のランニングコースを整備すれば、優れたスポーツ施設になる」と話していたことが印象に残っている。結果として実現には至らなかったが、外部の視点だからこそ気付く地域資源の活用方法や可能性も多くあると感じた。米沢には、まだ十分に活用

されていない観光資源が数多くあることから、そうした外部の視点も積極的に取り入れながら、新たな魅力や可能性を掘り起こしていくことが重要であると考えている。

■委員

- ・社会福祉協議会の立場で仕事をしているため、観光に直接関わることはあまりないが、福祉団体や地区の老人クラブなどが県内各地へ日帰り旅行に出かける話はよく耳にする。観光イベントは土日・祝日に開催されるものが多い印象であるが、仕事を引退されたシニア層を平日の米沢へ呼び込む視点も重要ではないかと感じている。平日に楽しめる観光資源やモデルコースを整備・提案し、各市町村の社会福祉協議会などを通じて情報発信することも有効だと思う。
- ・福祉の視点からは、イベントを開催する際に、高齢者や障がいのある方も安心して参加できるよう配慮することが重要である。誰もが安心して楽しめる観光やイベントという視点も、今後の取組に取り入れていただければと思う。

■委員

- ・近年は、「農泊」など農業と観光を組み合わせた取組が注目されているが、農家や農協は農産物を生産し、安全でおいしいものを安定的に供給することが本来の役割である。愛菜館や道の駅米沢などへ年間を通して農産物を出荷することはできるが、レシピ開発や観光商品の企画などは、また異なる専門性や役割が求められる。その点を理解した上で相談いただければ、農協としてもより連携・協力しやすいと思う。
- ・観光分野で農協が関わる施設としては愛菜館などがあるため、地域の農産物を観光資源として活用したい場合には、農協を橋渡し役として活用していただければ、農家との連携も進めやすい。観光と農業、それぞれの役割や得意分野を生かしながら事業を進めることが重要であると考えている。
- ・観光果樹園では、先日までさくらんぼ狩りの受入れを行っていたが、来園者は福島県からが最も多く、特に会津地方や福島市からの来訪が目立った。次いで栃木県、茨城県からの来園者が多く、首都圏からの来訪はそれほど多くない印象である。こうした実態を踏まえると、県外へのPRでは首都圏や関西に目を向けるだけでなく、日常的に米沢を訪れている福島県など近隣地域への情報発信や広域連携も重要であり、交流人口の拡大につながるのではないかと考える。
- ・また、PRを考える上では、山形県全体のブランド力を生かす視点も重要だと思う。観光果樹園を経営する中でも、山形を訪れる目的の一つが「さくらんぼ」であることを実感しており、特別な宣伝を行わなくても多くのお客様に来園いただいている。山形の農産物といえば、まずさくらんぼが思い浮かぶほど認知度が高く、人を呼び込む力を持った観光コンテンツとなっている。こうした強みを効果的に活用しながら観光PRを進めることで、限られた予算の中でも効率的な情報発信や誘客につながると考えている。

■委員

- ・第5期観光振興計画を拝見し、歴史や文化を生かした様々な取組が盛り込まれていると感じた。特に、上杉文化エリアや伝国の杜、博物館に関する取組として、常設展示室の充実に合わせたプロモーションや、上杉謙信公生誕500年に向けた取組などが記載

されており、大変心強く感じるとともに、博物館としてもその期待に応えていかなければならないと身の引き締まる思いである。

- ・一方で、館内でも以前から話題になっているが、どれだけ魅力的な展示や取組を行っても、県内外の方に知ってもらえなければ十分な効果にはつながらない。改めて PR や情報発信の重要性を感じており、どのような手法や媒体を活用して効果的に発信していくかについては、まだ工夫の余地があると考えている。関係者の皆様からも様々なアイデアや助言をいただきながら、情報発信の充実に取り組んでいきたい。また、博物館では資料の保存と活用の両立が重要であるため、その点にも十分配慮しながら、関係機関と連携して事業を進めていきたい。
- ・最後に質問だが、計画 58～59 ページに記載されている「アニメ・漫画・キャラクターを活用した観光魅力づくり」について、現時点で具体的な展望や構想があれば伺いたい。アニメは固定ファンが多く、観光コンテンツとしても大きな可能性を持っていると感じている。映画「好きでも嫌いなあまのじゃく」を契機とした取組もあったが、今後、この分野をどのように展開していく考えなのか、お聞かせいただきたい。

■委員

- ・普段から外国の方と接する機会が多いが、外国の方は私たちとは異なる視点で地域を見ており、私たちにとって当たり前の風景や文化が魅力的に映ることも多いと感じている。国際交流協会でも様々な交流事業を実施しており、芋煮会や新年会での餅つき大会、山歩きなどは特に人気がある。米沢には身近な山が数多くあることから、本格的な登山だけでなく、スニーカーでも気軽に登れる低山を活用し、外国の方と交流できるような体験型の取組にも可能性があると感じている。
- ・また、外国の方との交流を通じて、地域の魅力を改めて認識する機会も多い。外部からの視点は、地域の魅力を再発見するきっかけにもなるため、そうした気付きを観光や地域づくりにも生かしていくことが重要であると考えている。私自身も、米沢への理解を深め、地域の魅力について自信を持って発信できるよう努めていきたい。

■委員

- ・観光をどのように持続していくかについて、日頃から考えている。人口減少が進む中、観光やイベントを支える担い手は今後さらに減少していくことが予想される。現在 50 代前半の世代が生まれた頃と比べると、現在の出生数は半分以下となっており、今後 10 年ほどで現在の観光を支える中心世代もリタイアしていく。こうした状況を踏まえると、イベントやまつりを将来にわたって継続していくためには、持続可能な運営体制や取組を見据えた検討が必要になってくると思う。
- ・第 5 期観光振興計画は非常によくまとまっていると感じる。一方で、限られた人材や資源の中で計画を着実に進めていくためには、優先順位を明確にしながら、取組の取捨選択を行うことも必要ではないか。今後は、計画を推進するだけでなく、「いかに持続させるか」という視点をより重視していく段階に来ていると思う。
- ・観光は、施設や規模といったスペックだけで勝負するのではなく、「米沢は何となく面白い」「また来たい」と感じてもらえるような魅力づくりが大切だと考えている。四季

のまつりの期間には多くの観光客が訪れるものの、それ以外の時期にも継続して足を運んでもらえるような仕掛けが必要である。例えば、宮嶋氏が取り組んでいるオープンファクトリーのように、若い世代が「米沢は面白い」「こんな魅力もある」と感じられる取組は、今後さらに重要になると思う。

- ・また、先日、上杉城史苑で提供が始まった「勝つカレー」のように、上杉神社で必勝祈願を行い、絵馬を書いた後に食事を楽しむといったストーリー性のある体験を提供することで、米沢ならではの魅力を感じてもらえるのではないかな。

■委員

- ・教育機関の立場として、学生と地域をどのようにつないでいくかを日頃から考えている。現在、学生が地域と関わる機会としては、オープンファクトリーや上杉まつりのボランティアなどがある。しかし、学校からボランティアに参加しなさいという形では主体性が育ちにくく、一度のボランティアだけで地域への愛着を持ってもらうことは難しいと感じている。そのため、学生が自発的に地域と関わり、継続的に交流できる仕組みづくりが重要であると考えている。
- ・米沢には、山形大学工学部や米沢栄養大学をはじめ、三友堂看護専門学校などの教育機関があり、県外から来ている学生も多い。そうした学生が自発的に地域活動へ参加する仕組みを構築できれば、学生本人だけでなく、友人や県外に住む家族が米沢を訪れるきっかけにもなり、関係人口の創出にもつながるのではないかな。
- ・また、学生が主体的に地域を知るきっかけづくりとして、ロゲイニングにも注目している。米沢市では観光文化スポーツ部が新たに設置され、今年度のなせばなる秋まつりに合わせてスポーツ課がロゲイニングを実施すると聞いている。高校でも取り組んでいるように、走ったり歩いたりしながら地域を巡るロゲイニングは、地域の魅力を楽しみながら知ることができるため、学生が主体的に地域と関わる契機となる興味深い取組だと感じている。

■委員

- ・昨年度、第5期観光振興計画の策定に携わらせていただき、改めて計画を見返して感じたことをお話したい。上杉雪灯籠まつりや上杉まつりのような大規模なイベントは、多くの来訪者が見込まれ、PRにも力を入れて実施されている。一方で、日頃、市内を回っていると、出張で米沢を訪れた方が空き時間を利用して上杉神社や上杉文化エリアなどを観光している姿をよく見かける。また、商店街には土日を休業し平日のみ営業している店舗や、予約制で様々な体験を提供している店舗も多いが、そのような情報は十分に発信されていないように感じる。
- ・例えば、平日に利用できる店舗や体験メニューを整理し、道の駅で配布している「まちナビカード」のような形で紹介できれば、観光客にとって分かりやすく、利用促進にもつながるのではないかな。さらに、カードを持参した方が特典を受けられるような仕組みを設けることで、平日に楽しめる観光コンテンツを効果的に発信できるのではないかなと考えている。
- ・今後は、大規模なイベントだけでなく、継続的に米沢を訪れてもらえるような観光の仕

組みづくりも必要だと感じている。例えば、おいしいものを味わい、地域ならではの体験を楽しみ、その流れで小野川温泉や白布温泉に宿泊してもらうなど、小規模な旅行や出張の空き時間でも楽しめる観光コンテンツがあると面白いと思う。

- ・また、ワンコインタクシーのような取組は良い事例だと感じており、市が公共交通の充実に取り組まれていることも大変良いと思う。一方で、場所によっては歩道が歩きにくい箇所も見受けられるため、徒歩で観光の方が快適に周遊できるよう、歩行環境の整備も必要ではないかと考えている。
- ・最後に質問だが、米坂線開業 100 周年に合わせたイベントなどは予定しているのか伺いたい。

■委員長

- ・この計画を見て感じたのは、米沢を大切に思い、地域の文化や歴史をリスペクトしてくださる観光客をどう増やしていくかが重要だということである。4月に久しぶりに京都を訪れた際、金閣寺や銀閣寺では多くの外国人観光客を見かけたが、以前とは客層が変わっているように感じた。観光客が増えること自体は喜ばしいことだが、一方で、文化や歴史への関心よりも、「有名だから訪れている」という印象を受ける場面もあり、少し残念に感じた。米沢においても、単に観光客数を増やすことを目指すのではなく、地域の文化や歴史を大切にし、地域を尊重してくれる方に訪れていただけるようなプロモーションが重要ではないか。
- ・昨年、デンマークの首都コペンハーゲンを訪れた際に、観光客がごみ拾いや草刈りなどの環境保全活動に参加するとコーヒーやランチなどの特典を受けられるような取組が行われていた。観光客と地域とのつながりを深め、双方にとって良い関係を築く取組だと感じた。米沢でも、工夫次第で地域との関わりを生み出し、ブランド価値の向上につながるような仕組みを検討できるのではないかと感じた。
- ・本日、様々な意見が出されたが、こうした取組を行政だけで進めていくことは難しいと思う。事業者や市民など、多くの方が「協力したい」と思えるような仕組みづくりが重要ではないか。その点について、DMO としてどのように考えているのか、オブザーバーの宮嶋氏からもお話を伺いたい。

■オブザーバー

- ・観光は、様々な人が様々な目的を持って訪れるものであり、一つの取組だけで成功するものではないと考えている。そのため、多くの方が関わり、特に米沢を愛する人たちが地域の魅力を発信していくことが重要である。行政や DMO が自ら事業を実施することも必要だが、地域で主体的に活動する方々を支え、後押ししていくことも重要な役割であると考えている。
- ・また、個人的な考えではあるが、AI の普及によって情報を容易に得られる時代になる一方で、自ら現地を訪れ、見て、感じて、体験することの価値は今後さらに高まっていくのではないかと感じている。AI を活用する上でも、多様な経験や知識を蓄積することが重要であり、旅を通じて新しい景色や文化、人との出会いを経験することの価値は、これまで以上に高まっていくと考えている。

- ・そのような中で重要になるのが、「社会文化資本」という考え方である。歴史や文化、人々の暮らし、地域性など、その土地ならではの価値そのものが、その地域を訪れる理由となる。米沢は、全国的に見ても、こうした社会文化資本に恵まれた地域であると感じている。
- ・オープンファクトリーも、地域のものづくりや人とのつながりといった社会文化資本を活用し、エンターテインメント性も取り入れながら、その魅力を来訪者に伝える取組の一つである。こうした米沢ならではの価値をどのように発信していくかが重要であり、その考え方は第5期観光振興計画の方向性にも通じるものがあると感じている。
- ・今後は、計画を策定するだけでなく、着実に実行し、その成果を積み重ねていくことが重要である。また、この委員会においても、計画の実現に向けて何を議論し、どのように取り組んでいくかを継続的に考えていくことが重要だと考えている。

■委員

- ・本日ご出席いただいた委員の皆様から、それぞれのお立場から貴重なご意見やご提言をいただいた。先ほど3名の委員からいただいたご質問について、事務局から回答をお願いしたい。

■事務局

- ・PDCAに関する取組については、現時点では具体的な数値目標などは設定していない。今年度の重点的な取組については、本日配付した別紙1「令和8年度の主な実施事業」に記載の事業を中心に進めていく予定である。
- ・「アニメ、漫画、キャラクターを活用した観光魅力づくり」については、現時点で新たな映画制作の予定はない。今後、「好きでも嫌いなあまのじゃく」のような米沢を舞台とした作品が制作された場合には、観光PRに積極的に活用していきたいと考えている。
- ・米坂線開業100周年に関連したイベントについては、今年9月にJR東日本と連携し、実施する方向で準備を進めている。

【(3) 令和8年度米沢市観光振興委員会視察研修(案)について(別紙2)】

■事務局より、資料に沿って説明(別紙2)

■委員長

- ・先ほど市長からガストロノミーツーリズムに力を入れていくとの話もあった。鶴岡市は食文化を生かした取組を積極的に進めているため、そのような視点からも視察できるとよいと思う。

【6 その他】

【7 閉会】